

## 27 里四熊部落奉納子ども相撲



里四熊部落では、毎年8月7日に近くの幼児、学童を集めて奉納子ども相撲が盛大に行われています。その内容は個人対抗、三番げし(勝ち抜き)、五番げしなど組み合わせも多種多様です。勝者、敗者共に、はな包(賞品、祝儀)や笹ばな(生笹竹に数々の賞品がたなばた状にくくりつけてある)が与えられる。

緊張するうちにも、面白おかしく、勝ってよろこぶ子、負けて残念がる子、泣き出す子と思おも及ばぬ光景です。

この行事の由来については、さだかではないが、部落の古老の話によりますと天保4年〔1833年〕諸国に飢饉、悪病が流行した時に、部落住民こぞって悪疫を追い払い、家内安全、五穀豊作を祈って、奉納相撲を実行することを計画しました。明治時代は河内神社境内で行われていました。大人の組み合わせが主で、遠くは富田、福川方面からの参加もありました。河内神社は、現上野八幡宮に合併させられたので、四熊バス停付近の四熊川砂場を利用していた。昭和になり、四熊小学校の校庭に移して国民健全育成にこたえて、子ども相撲に自然に変わっていった。今では、四熊公民館で実施しています。昔ながらの伝統を守って今も続いています。